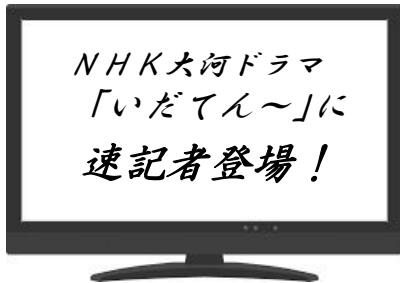


NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」に速記者登場！
第28回7月28日（日曜日）放送予定。——「日本の速記」7月号で紹介



その話は突然やってきました。現在放映中の大河ドラマ「いだてん」で、速記者の役の女優さんに速記を指導してほしい。場合によっては、手元を差しかえる場合もあると言われたのです。そもそも速記をそんなに短時間で習得できるはずのないことは、容易に想像ができるはず。速記を職業にしている私たちなら、なおさら無理だと思ふところですよ。

しかし2日後、女優さんの練習用としてスマホでの手元撮影、1週間後、女優さんへの直接指導を兼ねたリハーサル、その翌々日には本番の撮影というスケジュールで進めることになりました。

昭和初期の朝日新聞で速記係を務めていた人の役で、ふだん使わない鉛筆に、A5判ぐらいの小さなわら半紙のようなすべらない紙を渡されたので、とても書きづらいものでした。実際、朝日新聞には速記部という部署があったそうですが、今は部署もなくなり、速記が書ける人は誰もいないそうです。

台本も手元に届き、女優さんとのリハーサル。ご本人が「おもしろい、頑張りたい」と言ってくださったので、当初30分の予定が、気がつけば1時間あっという間に過ぎていました。もちろん基礎から教えている時間もなく、手元が大きく映る2カットの部分だけをとにかく練習してもらいました。

そしてその翌々日、女優さんは朝から衣装に着替え、ヘアメイクをして、カメラやスタッフ、他の役者さんがたくさんいる中で本番です。祈るような気持ちでした。

「カット！チェックお願いします」。まず、書いている姿が美しい。すらすら手が動いているし、もう私的には完璧でした。「めちゃくちゃ練習したんですよ」と笑顔。さすが、これが女優魂なのかとびっくりしました。結果、手元の差しかえはなし。もう1つのカットは何度か撮り直しましたが、さて、物語の鍵を握る（？）速記はどんなふうに映るのでしょうか。

大河「いだてん」で速記が出てくるのはたった1回ですが、史実に基づいた大河ドラマの中でこのように撮影に携われたこと、とても光栄に思いました。速記が登場する最初で最後の大河ドラマ!? ぜひご覧ください。

（速記者F記）

NHK ホームページより

NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」

第2部・田畑政治篇（6月30日～）

～1940年、幻の東京オリンピック～

1932年ロサンゼルスオリンピックの快挙に沸く日本。

嘉納の夢だった「東京オリンピック」は、いつしか国民の悲願へと変わっていきます。

1940年のオリンピック開催地をめぐる攻防の舞台は欧州へ。各国の思惑に翻弄されながらも、嘉納、田畑らの熱意は世界を動かし、ついに、東京オリンピックの開催が決定します。

しかし、不幸にも、歴史は戦争へと突入していきます。

1940年東京オリンピックの招致をめぐる熱狂と悲劇を、田畑政治の破天荒な活躍とともにスケール大きく描きます！

田畑政治の妻 酒井菊枝（さかい・きくえ）

江戸時代から続く日本橋の老舗「酒井商店」の長女。緒方の紹介で、無口でおしとやかな人柄を田畑に見初められ、結婚。新聞社では速記係を務め、早口でまくし立てる田畑の言葉やなぐり書きの文字を正確に聞き取り、解読する。結婚後も、夫・政治がオリンピックにかける情熱を誰よりも理解し、激動の人生を、よき妻として陰で支え続ける。